

愛知県神社関係者大会開催



県神社庁（小串和夫庁長）は12月16日、刈谷市の総合文化センターを会場に恒例の県神社関係者大会を開催し、県内の神職・総代など、1,604名が参加した。

式典では開会儀礼に続いて功労者の表彰が行われ、功績顕著な神職や総代・敬神家を始め神宮大麻頒布優良支部などがその栄に浴した。

引き続き、小串庁長と県神社総代会会長（代理・大森一人副会長）が挨拶した後、神社本庁統理からの告辞を田中恆清総長が代読。来賓を代表して神宮大宮司（代理・梅坂昌春神宮参事）、竹内良則刈谷市長が祝辞を述べた。

議事では、「憲法改正に向けて一大国民運動を展開するべく、我ら神社関係者は、関係諸団体と連携を図りつつ、総力を結集して平成27年の早い時期に、「美しい日本の憲法をつくる県民の会」を立上げ、賛同者拡大運動を展開し、斯界の長年の悲願であった自主憲法を実現する為、邁進努力することを誓う」旨の大会決議が決議された。

式典後には拓殖大学教授呉善花氏が「日本ルネッサンス～日韓の違いから見る日本の本質」と題して講演した。